



NO. 798
 発行
 13・9月25日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 上石 昌彦
 編集責任者
 教 宣 部

職場の労働条件改善と 組織強化・拡大へ奮闘しよう

第66回定期地方大会 新執行体制スタート

第66回定期地方大会が9月7日
 地本会議室で開催されました。10
 時現在、代議員13名中、11名出席、
 2/3以上の出席を確認、大会が
 成立したことが宣言されました。
 今年の大会は、職場の問題点や
 検修全面外注化後の職場状況・実
 態などについての報告・意見が多
 く出されました。特に出向先の職
 場の現状など、意見がありました。



議長に 服部代議員を選出

議長に、新潟県支部の服部代議
 員を選出しました。続いて、関川
 地本執行委員長のあいさつ・来賓
 は新社会党・日本共産党・退職者
 組合から、それぞれあいさつがあ
 りました。

全体の意見

運動方針案・財政関係の提案を
 午前中に行い午後から、全体の質
 疑・討論に入りました。



●他労組との共同行動について、
 なぜ国労東日本から叱られたのか？
 運転士の試験（医適検査）で目
 の検査について緩和されると聞い
 ているが、緩和されるのか？

●酒田は組織人員が7名。運動が
 大変になっている。地域の中では
 退職者組合の方々と一緒に取り組
 んでいる。新採者など、新潟から
 酒田へ配属されるが休みになると
 地元へ帰る。現状から災害時の時
 の対応が厳しい。地元からの採用
 を考えて欲しい。

●検修外注化で昨年10月1日から
 出向となった。検修外注化につい
 てアンケート調査し要求を集約し
 団交に臨んだ。しかし、その結果
 が遅い。団交後に集会を開催した
 が、情報が伝わるまで遅い。
 拡大10%の目標、難しい状況
 だ。関連会社の労働者へも拡大へ
 つなげていく取り組みを進める。

現職・元国労組合員も対象として
 運動を広げていく。情報の早急な
 伝達をしていくこと。
 JAL労働者不当解雇撤回の全
 国キャラバン行動が展開される。
 新潟は17日から20日まで取り組ま
 れる。すでに、各労働組合へオル
 グが入っていた。国鉄闘争と同様
 に取り組みを進めていこう。国鉄
 闘争並みの地域に共闘会議をつく
 ることは難しいが運動を進めてい
 きたい。



●国労東日本本部の定期大会での
 役員選出について、過半数による
 当選ではないのではないか。
 郡山の職場についても内部被爆
 の問題・組合としても取り組んで
 欲しい。
 検修外注化について交渉した後、
 報告が無いのは異常だ。作業責任
 者の問題について、学習会の開催
 や申告、告発も検討していくこと。
 分会では偽装請負について交流会を
 開催、偽装請負について労基署へ
 申告した。

(裏面に続く)

関川委員長 あいさつ



政治情勢について～先の参院
 選挙の結果は自民・公明の圧勝
 になりました。新聞各紙は「衆・
 参のねじれが解消」などと、そ
 れが、あたかも良いことである
 かのように報道しましたが逆に国民と政治の間に
 おいては、今後ますます”ねじれ”が深まってくると
 思います。

しかし、こうした中で、自民党との対決姿勢を鮮
 明に打ち出した共産党が躍進したことは、自民党政
 治の暴走を危惧する国民の声も、また少なくないこ
 とを示しています。

今後は、対抗軸をどうつくっていくかということが
 ポイントになります。われわれ労働組合としても
 職場の中で、あるいは地域の中で一致点に基づく、
 協力・共同の取り組みを追及したいと思います。

組織拡大の課題です。われわれにととって喫緊の
 課題です。今日、この大会が終わってからも直ちに
 行動を移ってください。自分の身近に目をやってく
 ださい。

9月1日付で、新潟でも63歳の方が国労に加入
 されています。これを、ばねに、新潟でも大いに拡
 大を進めようではありませんか。

代議員の皆さんの活発な討論で、大会を成功裏に
 終わらせるよう訴え、あいさつとします。



書記長集約



労働条件改善、権利の確立と「安全・安定」輸送確立の闘い～新潟支社は、この数年間、各系統を問わず、支社全体での大量退職に伴い、「エルダー社員の雇用の場の確保」を名目に、多くの業務を委託してきました。そして、昨年10月1日には△54にも及ぶ要員削減を伴う、「運輸部門におけるグループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」についても実施してきました。

施策実施後、現在に至っても「緊急」「やむを得ず」という解釈が常態化していて、運転当直が作業責任者を介さず作業員へ直接作業指示を行ったり、作業責任者が日勤のため、夜間の21時30分から翌朝5時までは、作業責任者に連絡しないという運転当直の暗黙の了解があり、JRへの復帰問題等、解決されない問題は多くあります。

今年10月1日には、新津運輸区の構内計画業務の委託が実施されようとしています。これらの施策実施によって、乗務員を除く全ての職種・系統で出向が発生したことになります。更に同じく10月1日には、巻・内野・白山の各駅の業務委託を実施しようとしています。

これまでの出向と併せて、出向先での労働条件改善の課題と偽装請負を許さない取り組みは、ますます重要となってきます。

今後の取り組みとして、交渉経過を踏まえて偽装請負の問題と実施後の検証の取り組みを更に強め、施策として実施したJR側に、責任を持って対処することを強く求めるとともに、出向先における労働条件を含めた様々な問題についてすみ分けを行い、それぞれ対処していくこととします。

JAL原告団の支援についての取り組み～年度内にも予想される高裁判決に向けて、更に大きく支援・協力の輪を広げるために、9月から10月にかけて「日本海キャラバン」が計画されています。JAL原告団からの協力要請を受けて、それぞれの地域での行動を展開することになっています。17日から20日の地域オルグと20日の「不当解雇と闘うJAL労働者を支える9・20新潟集会」の成功に向け取り組みを強めます。

組織強化・拡大について～新潟は国鉄時代から鉄労王国で、国労は常に少数派の運動でした。分割・民営化の攻撃で、その数は更に少なくなり、現在に至っては今では国労運動を支え、その先頭になって国労の旗を守ってきた先輩の皆さんの退職によって、組織現状はさらに厳しいものになっています。

しかし、今ここで何もしなければこの現状を打開することができません。1名を拡大することが、どれ程大変なことかは言うまでもありませんが拡大を目標として、「どうしたらできるのか」「できない理由をどうしたら乗り越えることができるのか」を全体で考え、組合員ひとり一人がやれることを実践していき、組織拡大を展望できる組織の体制を作り上げなければなりません。

全分会で、組合員ひとり一人が何ができるのかを考え、役割を分担しあって、分会活動の再構築を目指して取り組みを進めていくことが重要といえます。どうか全組合員がそういった認識を共通のものとしていただき、組織拡大を展望できる状況をつくり出していくことを強く訴えて、地方本部も、その先頭に立って奮闘することを申し上げて集約とします。



● 9月10日に団交がある。誘導業務・仕業検査が外注化になっている。A番が委託化になった。鉄道サービスの要員が増えるだけで効率的にはどうなのか。

● 5月から新津へ移動になり出向となった。職場のフロアーが大きい。休養管理室の設備は他の職場と違っている。優遇されている(乗務員)。備品の使用方について明確ではない。誰が管理しているのか、いろいろ矛盾が発生している。作業員について、責任者からの指示待ちなので作業が遅れる。指示が遅くスムーズな作業ができない。作業責任者は全て把握していないのではないか。



● 検修外注化とNTSのミーティングがJR内で実施されている。JRの助役が作業日誌を読んでいる、それを聞いてチェック・作業の問題点はその場で調整している。ミーティングについて改善されていない。外注会社独自で実施されていない。連絡フロアーが無い。連絡は直接言われている。連絡は指示ではないので良いと判断されている。作業責任者へ昼間は技管、当直で作業責任者の指示ができていない。



● 作業責任者が複数いて、それぞれが指示している。特定の作業責任者からの指示になっていない。詰所のマジキリは、つくれないのか？

● 運転士から検修業務についての印象、車両のブレーキシリンダのストローク調整がおかしい。申告について検査時、異常が無ければそのままの状態でも車両を出してしまう。EBの動作不良など同様の現象が本線で発生しているが対応できない。NTSは、どんな教育をしているのか。

編集後記

地本大会の特集になりました。次号も地本大会の記事を集めます。第66回地本定期大会で新しい執行体制が確立されました。関川委員長が退任され、新しく執行委員長に上石さんが就任しました。組合員みなさんの、御支援・御協力をお願いすると共に、せいっぱい奮闘していきます。よろしくお願ひします。